

中国政治制度史研究の射程

渡邊 将智

私は、中国古代の政治制度について、後漢時代を中心に研究しています。中国古代史に関心を向けるようになったのは、中学生の時に吉川英治『三国志』（講談社文庫）を読んで、三国時代に興味を持つようになってからです。その後、高校生の時に「秦の始皇帝とその時代展」（世田谷美術館）を観てからは秦代と前漢時代に興味の幅が広がりました。また、『孫子』など中国古代の兵法書にも興味を持つようになり、さらに大学（二松学舎大学）に進学してからは、中国最古の詩集である『詩経』を中心に、中国古代の文学と思想を学びました。これらを通じて、春秋・戦国時代にも目を向けるようになりました。そうしたなかで、学部生の時に西嶋定生『秦漢帝國』（講談社学術文庫）と三田村泰助『宦官』（中公新書）を読み、後漢が成立して

から滅亡するまでの政治の流れを知りました。ここから後漢時代の政治に強い関心を持つようになり、大学院（早稲田大学）に進学して研究を始めたのです。

最初、私は「外戚や宦官はどのようにして権力を握ったのか」という「臣下の権力のあり方」を明らかにすることを目的として研究を始めました。しかし、その研究を進めるうちに、これらの臣下を用いて政治を行う皇帝に目を向けるようになりました。そして、「皇帝は国をどのように治めていたのか」、「皇帝を頂点とする政治体制はどのように維持されてきたのか」という「皇帝による支配の実態」により大きな関心を向けるようになったのです。

この問題を考えるにあたって、私は後漢の政治制度の仕組みを分析し、それを通じて、「後漢の皇帝は、どのような政治制度を作り、それをどのように用いて国を治めていたのか」という点を明らかにしようと試みました。そのために私は、従来の後漢時代の研究ではあまり注目されてこなかつ

た「政策形成」と「政治空間」に特に注目しました。

「政策形成」とは、「政策を作り、それを行うかどうか審議した上で、政策を決定し、実際に行う」という一連の流れのことで、政治制度の重要な柱にあたります。そこで私は、後漢の政策形成の流れを復元することによって、当時の政治制度の仕組みを明らかにしようと思いました。

また、「政治空間」とは、ここでは「皇帝と官（宰相・大臣・側近官など）の位置関係」を指します。私は、「後漢の官は、どこで、どのようにして職務を果たしていたのか」、「それらの官が職務を果たす場所は、皇帝が政治を行う場所や日常生活をおくる場所とどのような位置関係になっていたのか」ということを分析し、それによって明らかとなった事柄を洛陽城（後漢の都）の平面図に示しました。そこから皇帝と官の関係を読み取ることによって、皇帝が国をどのように治めていたのかを明らかにしようとしたのです。この平面図を作る

にあたっては、洛陽城の遺跡（漢魏洛陽城遺址）の考古発掘の成果も取り入れて、宮殿や役所の位置を図に示しました。

以上の二つの点に特に注目することにより、皇帝による支配の実態とそれを支えていた政治制度の仕組みについて、後漢を中心に研究してきたわけです。

私のように中国古代の政治制度を研究したり、学んだりすることは、現代の日本に生きる私たちにはまったく意味の無いことのように見えるかもしれません。しかし、現代の中国の政治をより深く理解するためには、前近代の体制を支えていた政治制度の仕組みを知ることを通じて、現代の体制を支える政治制度の源流を探ることが重要となります。その意味において、前近代の政治制度に目を向けることには大きな意義があります。

実際、前近代の中国の政治制度と現代の政治制度の間には、共通する部分があります。例えば、後漢時代の政策形成に注目すると、当時はまず官僚たちが政策を作り、

その後、三人の宰相たちが「三府議」と呼ばれる会議を開いて、その政策を行うかどうか審議しました。皇帝は、この会議の結果に基づいて政策を決定していました。つまり、後漢時代の政策は、宰相たちによって事実上、決定されていたのです。

このような会議の制度は、その後の時代にも基本的に受け継がれていきます。現代の中国では、中央政府の最高幹部たちが政治局常務委員会で会議を開き、その会議で政策を作るとともに、それを決定しています。現代の政策形成の流れは皇帝が君臨していた前近代のそれとは大きく異なりますが、政策を有力者の合議によって決定するという政治制度の特色は、現代の中国にも基本的に受け継がれているのです。

このように、前近代の中国の政治制度と現代の中国の政治制度の共通点に目を向けてみると、中国の政治の本質を理解することができます。また、前近代の政治制度と現代の政治制度の共通点と相違点を比較することによって、現代中国の政治の特色を

浮かび上がらせることも可能になるでしょう。中国政治制度史は前近代の中国を研究の直接の対象とするものですが、現代の中国を射程に収めることによって、その政治のあり方をより深く理解することができるようです。

もちろん、これは政治制度史の分野に限ったことでは決してありません。現代の社会や文化の動きを意識しつつ、前近代の社会や文化に対する理解を深めていくことによって、現代の世界を見る目を養うことができますのです。学部生の皆さんには、現代の世界の動きにも目を向けつつ、ぜひ歴史学を学んでもらいたいと思います。

古代史の魅力

櫻井 絵美夏

私が研究しているのは、古代メソポタミア史で、「ハンムラビ法典」で有名なバビロン王ハンムラビが全メソポタミアを統一